

| | | | |
|------------------------|---|---------------------|------------------------|
| 演題名 | ご利用者の笑顔で楽しい暮らしを支援する ～幸せホルモン～ | | |
| 施設名 | ケアセンターけやき | (ふりがな) 発表者(職種) | まついゆうか 松井優果 (介護福祉士) |
| (ふりがな) チーム名 | ハッピースマイル | | |
| 分類 | ①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの | | |
| 取り組種別 | 施策実行型 | | |
| 改善しようとした 問題課題 | 今年度は、ご利用者の笑顔で楽しい暮らしを支援し、S-QOL-D18点以上のご利用者を入所者半数14名を今年度の目標とし、対策を実施してきましたが、目標に届かない状況のため、新たな取り組みを行うことにしました。 | | |
| 改善の指標と その目標値 | (指 標)S-QOL-D9～17点のご利用者の「楽しんでいる」を、「まれに見られる」を「ときどき見られる」に改善しS-QOL-Dの向上を図る。 (目標値)C18点以上を14名以上 | | |
| 実施した対策 | ・セロトニンの分泌を促し、ご利用者が楽しい気持ちになれるよう、笑いヨガに取り組み込むことにした。しかし、笑いヨガ協会会員で板橋区で活動している方に連絡したがアポイント取れず、笑いヨガ養成講座を受講するには、時間と費用がかかるといった問題が発生した。 そこで、笑いヨガ協会があげているYouTubeを見て覚え、ご利用者と一緒に毎日笑いヨガを実施した。 | | |
| 改善指標の 対策実施 前後の変化 | S-QOL-D18点以上のご利用者、実施後12名と増えましたが、目標値には届かなかった。しかし「ときどき見られる」が実施前は9名でしたが、実施後は「ときどき見られる」10名「よく見られる」3名と改善することができた。 | | |
| 歯止めと 標準化 | 標準化: 笑いヨガを毎日ご利用者と職員で実施し、幸せホルモンの分泌を促す。 管理: ご利用者のS-QOL-Dを毎月測定しアセスメントする。職員にはアンケートを6か月に1回実施しモチベーションを把握する。 教育: 職員に笑いヨガの効果の知識を伝え理解を深める。 | | |
| 活動の種類 ※複数選択可 | ①職場単位の活動 | チーム メンバー (職種) | 1 松井優果 介護福祉士 |
| 活動の場 ※複数選択可 | ②支援部門 | | 2 関口翔 介護福祉士 |
| 活動期間 | R5年9月～R5.11月 | | 3 川口美由紀 介護福祉士 |
| リーダー名 (職種) | 関口翔 介護福祉士 | | 4 平井敏男 介護福祉士 |
| 活動回数 | 6 回 | | 5 星野亜衣 看護師 |
| | | | 6 河井ともみ 看護師 |